

介護施設等における防災リーダー研修

リスクマネジメントオフィス梅田（防災士）

梅田浩史

1. BCPと防災

2. 防災リーダーの役割

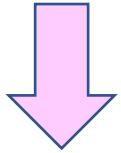
3. 自施設の災害リスクの把握

4. 被害想定

5. 事前の防災対策・災害発生時の対応

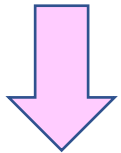
1-1). 災害等の危機に対応するために

「災害にあうと、何が起きるか？」



「何が起きるか」を想像できないと、うまく対応できない！

「その時、何をしなければならないか？」



当面の対応だけでなく、危機が去るまでの事を考えよう！

「その時、迷わず『すべき事』ができるか？」

事前の準備なしに、うまく対応できるか？
うまくできないのであれば、必要な準備をしておきましょう！

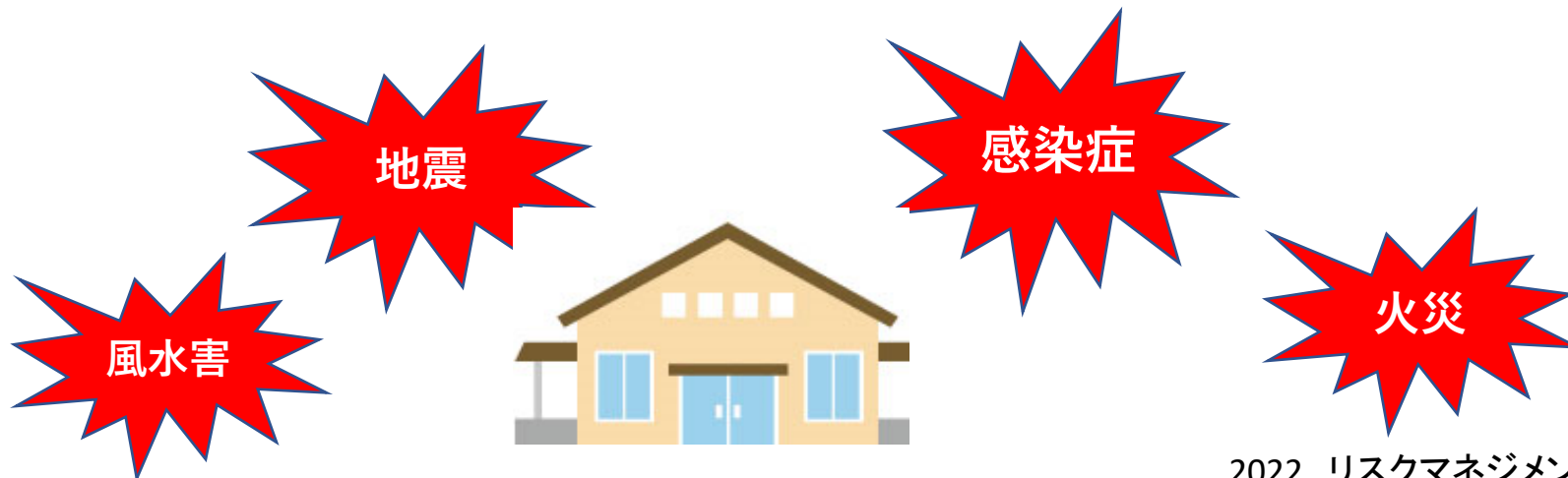
1-2). 業務継続計画(BCP)とは？

従来の防災計画に「業務継続」の考え方を導入する。
(業務<サービス>を早期に復旧・継続させるための考え方)



Business Continuity Plan(BCP)＝業務継続計画

BCPとは、災害や事故などの緊急事態が発生した場合でも、
早期に業務を復旧・継続させるための計画



1-3). BCPと防災計画の違い

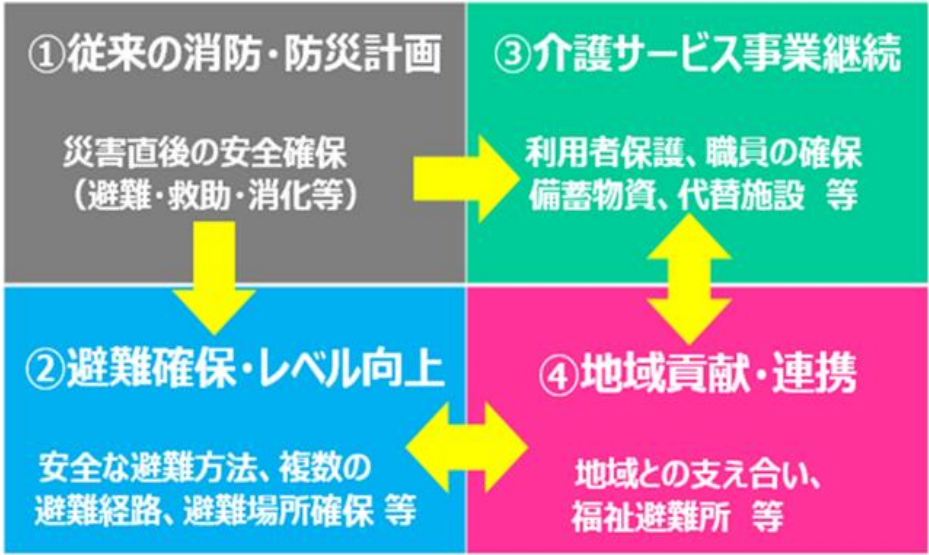
防災計画と自然災害 BCP の違い①

	防災計画	BCP
主な目的	・身体、生命の安全確保 ・物的被害の軽減	・身体、生命の安全確保に加え、 優先的に継続、復旧すべき重要業務 の継続または早期復旧
考慮すべき事象	・拠点がある地域で発生することが 想定される災害	・自社の事業中断の原因となり得る あらゆる発生事象
重要視される事象	・以下を最小限にすること ➢ 「死傷者数」 ➢ 「損害額」 ・従業員等の安否を確認し、被害者を 救助・支援すること ・被害を受けた拠点を早期復旧すること	・左記に加え、以下を含む ➢ 重要業務の目標復旧期間・目標 復旧レベルを達成すること ➢ 経営及び利害関係者への影響を 許容範囲内に抑えること ➢ 利益を確保し企業として生き残ること
活動、対策の検討範囲	・自社の拠点ごと	・全社的（拠点横断的） ・依存関係にある主体 （委託先、調達先、供給先）

出典：（厚生労働省老健局）介護施設・事業所における自然災害発生時の業務継続ガイドライン

従来の防災計画に、避難確保、介護事業の継続、地域貢献を加えて、総合的に考えることが重要

福祉防災計画



出典：（一社）福祉防災コミュニティ協会作成を一部修正

福祉防災計画＝

①消防・防災計画

＋ ②避難確保計画

＋ ③ BCP

＋ ④福祉避難所計画



これまでの防災計画・対策が基礎となる

1-4).災害の特徴一覧

災害の特徴一覧

	風水害	地震	感染症
主な被害対象	すべての経営資源	すべての経営資源	ヒト、財務
影響発生までの時間軸	～数日	～数秒	～1・2ヶ月
影響範囲	国内（局所）	国内（広域）	全世界
二次災害	－	火災、津波、倒壊、余震	－
復旧までの環境変化	小	小	大
社会全体の活動	局所的に活動が止まること がある。	被災地では、社会活動が 止まる。	制約あるものの活動している。 影響は長期化すること がある。

この時間を使って、
対応の準備をする
（タイムライン）

事業所にサービスの提供（継続）を期待（要求）される

BCPの考え方を導入！

2020 リスクマネジメントオフィス梅田より

1. BCPと防災

2. 防災リーダーの役割

3. 自施設の災害リスクの把握

4. 被害想定

5. 事前の防災対策・災害発生時の対応

2-1).防災リーダーの役割

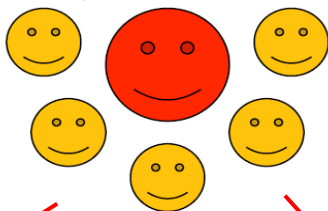
施設の防災リーダーの役割

平常時

平常時から、リーダーとして自施設で中心となり活動することで…

防災を学ぶ（防災研修等の受講）

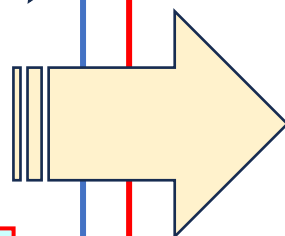
他の職員や利用者に防災の知識を伝え、防災力を向上させる



防災活動に、現場担当者等を巻き込む

訓練を通じて、課題を発見し、対策を立案する

災害発生



災害時

災害時、職員の先頭に立って、自施設の防災活動を主導していくことができる

<災害時対応をする>

- ・安全確保
- ・二次災害防止
- ・救護
- ・初期消火
- ・安否確認
- ・避難誘導 等

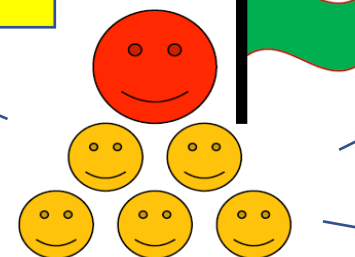
自分の身は自分で守る（自助）

様々な突発的な事象に対応する

様々な指示や判断をする（安全確保の判断等）

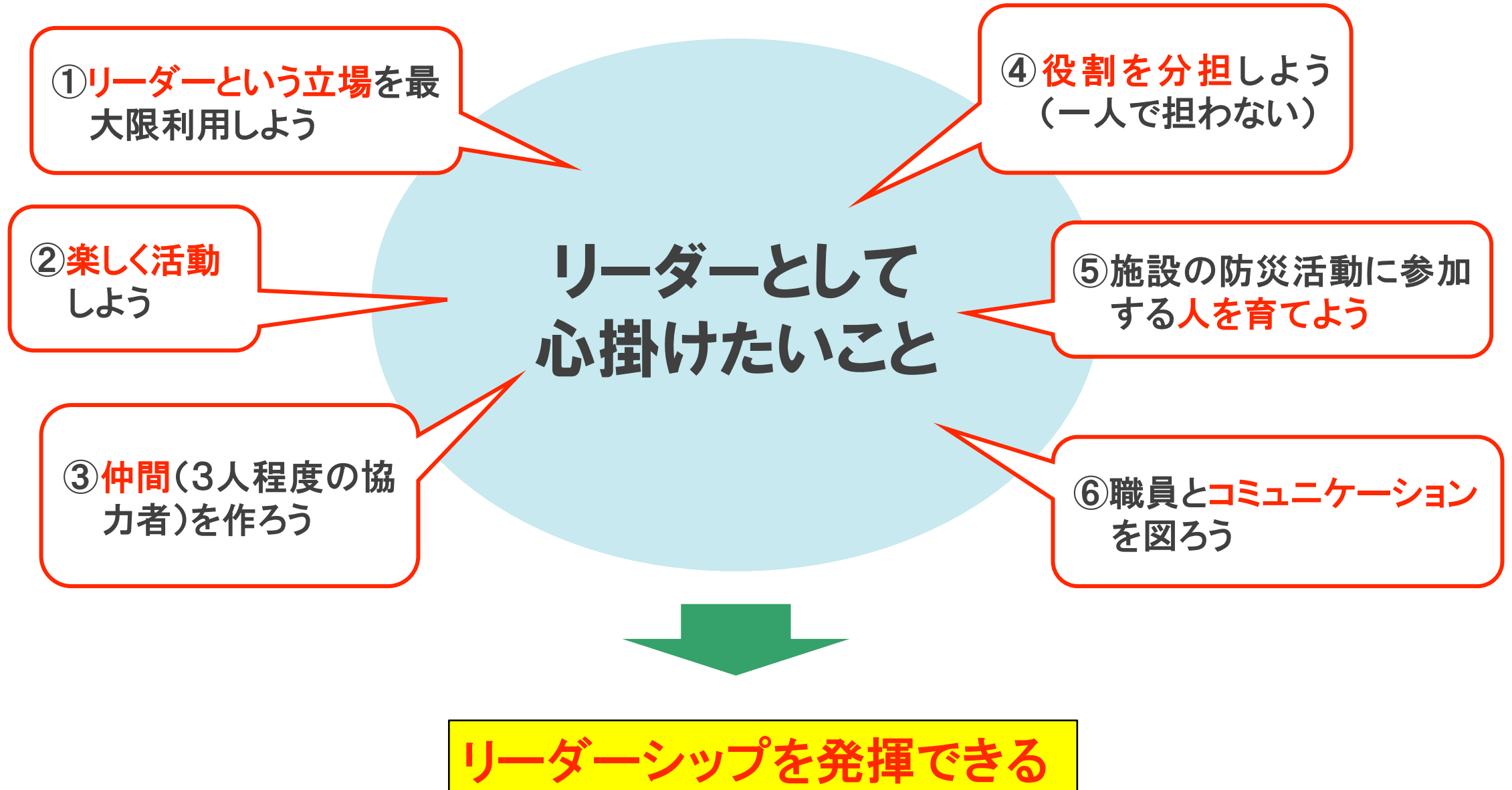
緊急時組織の司令塔になる

緊急時対応の役割分担をする



周辺地域の施設や住民と互いに協力しあう（共助）

2-2).リーダーとしての心掛け



平時から研修・訓練を通して防災力を向上させる

「災害にあうと、何が起きるか？」

- ①「自施設で、地震が発生したら、どんなことがおこるか？」を話し合う
 - <1>施設の中でどんなことが起こるか話し合う。
 - <2>その時、何をすべきか話し合う。
 - <3>迷わずに対応するためには、どんなツールがあったらいいか話し合う。
 - <4>対策について、役割分担をして、何時までに作成するかを決める。
⇒これをマニュアルに反映する。



「その時、何をしなければならないか？」

- ②クイズ型訓練
 - <1>入浴介助の時に地震が起きたら、どう対応しますか？
 - <2>地震でトイレの水洗が使えなくなったらどうしますか？
 - <3>エレベーターが使えない時、全入居者への食事の提供はどうしますか？

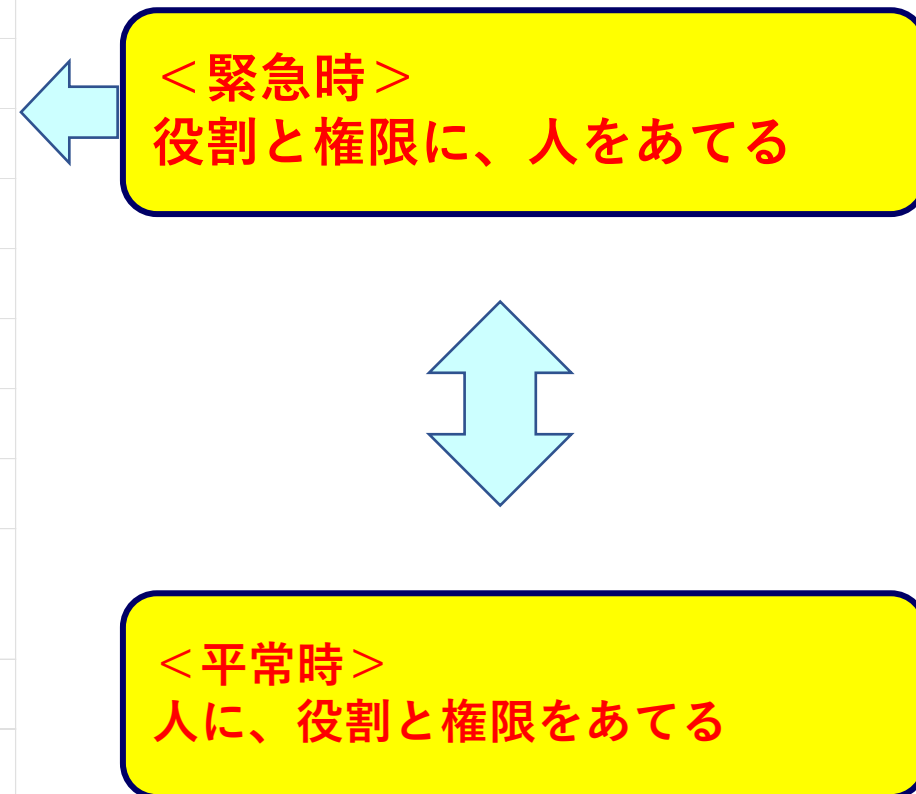
「その時、迷わず『すべき事』ができるか？」

- ③実動訓練
 - <1>避難訓練
 - <2>消火訓練
 - <3>対策本部設置訓練



2-4).災害時の役割（役割分担サンプル）

発災時役割分担表		
No.	役割項目	担当者名
1	館内放送	
2	対策本部設置	
3	安否被害確認シート貼り付け	
4	職員の安否確認	
5	入居者の安否確認	
6	調理場の安全確認	
7	エレベーター閉じ込め確認	
8	建物被害確認	
9	火災対応（通報・消火・避難）フロー	
10	転倒者対応処置フロー	
11	割れたガラスの取り扱い	
12	ガラスによる切り傷の応急手当フロー	



1. BCPと防災

2.防災リーダーの役割

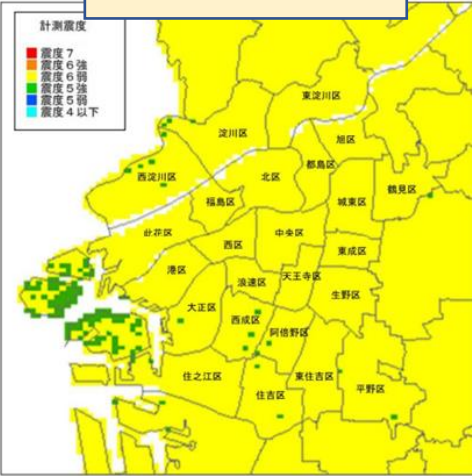
3.自施設の災害リスクの把握

4.被害想定

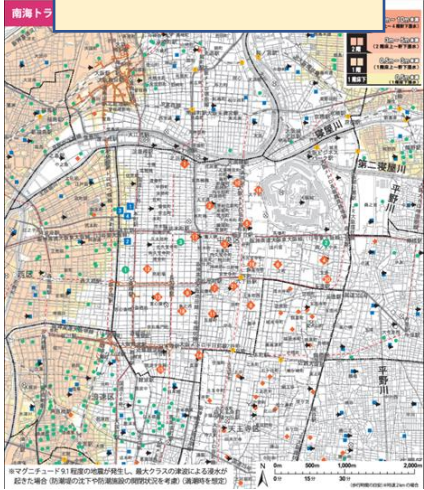
5.事前の防災対策・災害発生時の対応

3-1).自施設の災害リスクを把握する

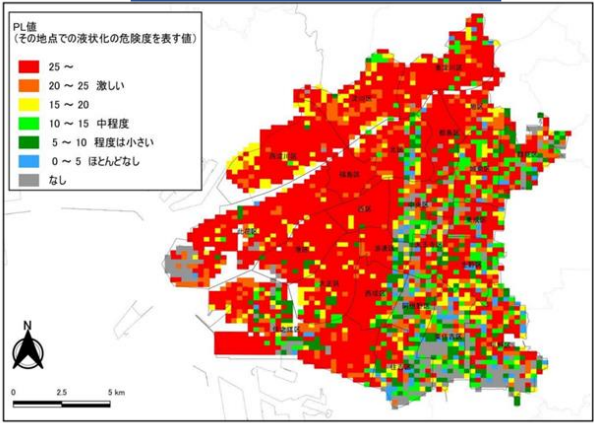
地震（震度）



地震（津波）

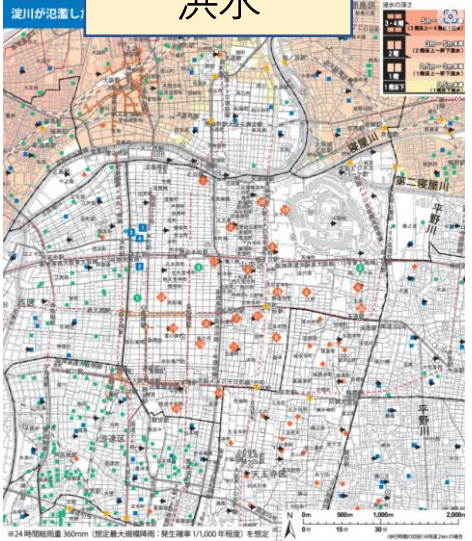


地震（液状化）



(出典：大阪府 南海トラフ巨大地震による震度分布・液状化可能性の詳細図)

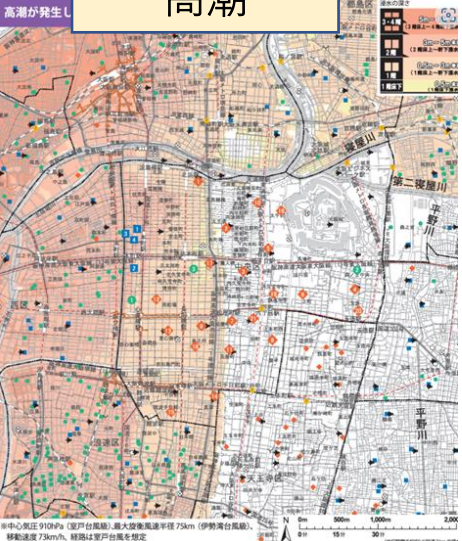
洪水



土砂災害



高潮

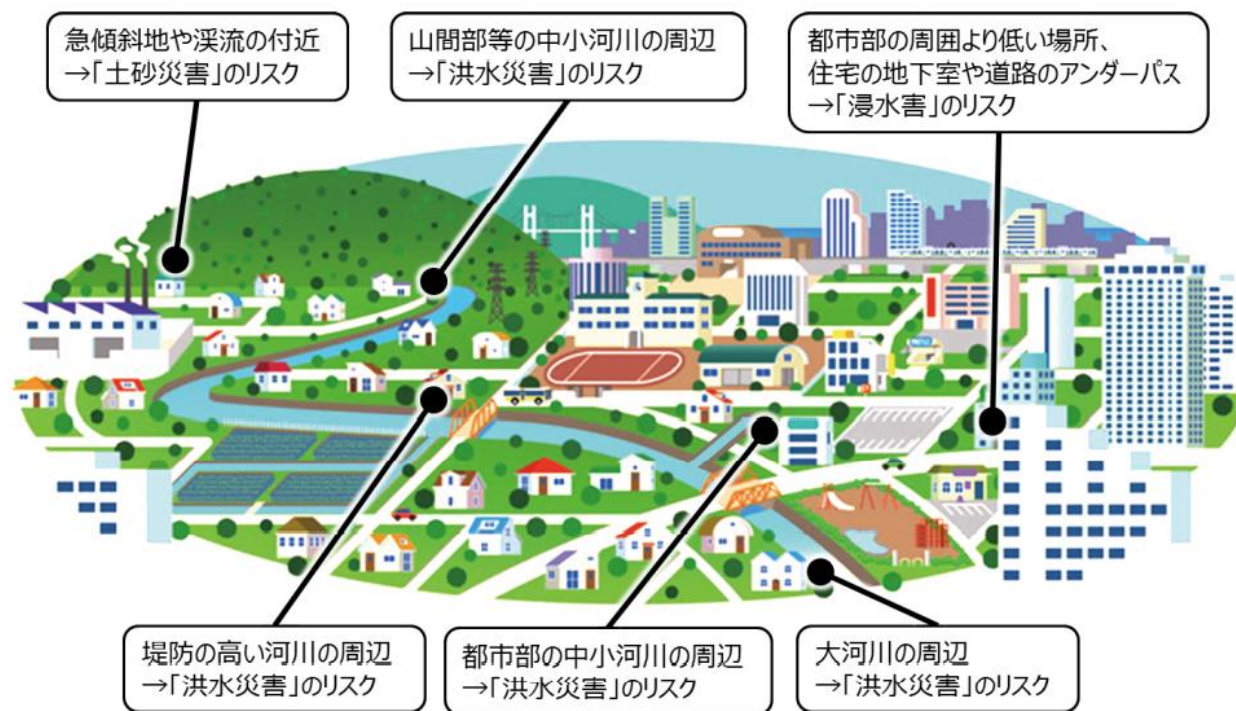


3-2).自施設のある地域の自然条件（気候・地勢）や特性を理解する

1)雨の多い地域・少ない地域（危険な雨量：＜一般的には80mm/時・400mm/日＞は地域によって違う。）

2)川がある（洪水や内水氾濫のリスクがある）

3)山がある（土砂災害のリスクがある）



大雨により視界が悪く、また、浸水した道路では側溝の境界が見えにくくなります。
川や田んぼを見に行き流される事故も発生しています。

「大雨や台風に備えて」 気象庁より

1. BCPと防災

2.防災リーダーの役割

3.自施設の災害リスクの把握

4.被害想定

5.事前の防災対策・災害発生時の対応

< インフラ等の被害 >

想定被害状況リスト (H26.1.24付けの南海トラフ地震被害想定：中央防災会議参照)

項目		想定被害内容
電気		発災後3日間の停電、電柱被害区域では、7～14日間の停電 (照明・空調・IT機器・警備施設等使用不可) (停電によるITデータ損失)
水道		発災後7日間の断水 (飲料水の使用不可・水洗トイレの使用不可)
ガス		発災後4週間程度の供給停止
通信	固定電話	通話規制により5日間程度つながらない
	インターネット	停電のため3日間は使用できない
	携帯（通話）	通話規制により5日間程度つながらない
	構内電話	内蔵バッテリーにて使用可（3時間？）
	ナースコール	外付けバッテリーにて使用可（4時間？）
	非常放送設備	内蔵バッテリーにて使用可（10分？）
道路	携帯（メール）	当日は輻輳するが、翌日から使用可能
	高速道路は2週間程度の通行止め 幹線道路は緊急車両以外の通行止め（1週間程度） その他の道路は渋滞の発生により、通常時より2～3倍の所要時間が必要	
	鉄道	
物流		3日間の運行停止。その後順次運行再開<震度4以上で安全確認のため運転見合わせ>
燃料		緊急物資輸送以外の輸送は困難（2週間程度）
燃料		2週間程度の不足（ガソリン・発電機用燃料等）

< 室内の被害 >

項目		想定被害内容
従業員		一部負傷者発生 公共交通機関の麻痺や家族の負傷により出社不可 (当初2日間●割、3日後●割、5日後●割が出社できず) 帰宅困難者の発生
モノ	施設・建物	耐震性の低い建物の倒壊、損傷 屋上施設の転倒破損(アンカーボルトの破損) 非構造部材(壁面壁の剥離・窓ガラス等の破損・天井の落下・間仕切り・照明器具・空調機器・(接続)配管・配線・ケーブルラック・受水槽等)の損壊 エレベーター・リフトの閉じ込め発生 二次災害(火事・爆発・ケガ等)の発生<化学薬品・危険物施設・ガス漏えいによる出火> 部屋の備品(家具類・ロッカー・書棚・コインロッカー・ガラス等)の破損・倒壊 天井材・額・照明器具の落下 ブロック塀の転倒
	設備	固定していない設備（倉庫の部品棚・家具・テレビ・パソコン・プリンター・コピー機等）の転倒、移動 部屋の備品(ロッカー・書棚・コインロッカー・ガラス等)の破損・倒壊 自動販売機の転倒 ファイル・書籍の散乱
	スプリンクラー	非常用発電機で稼働（3時間？）
	情報システム	固定していないサーバ、基幹システムの転倒、損傷 パソコンが損壊して、バックアップのないデータが喪失
資金		事業停止期間の収益の減少（営業ができなくなり、収入がなくなる。） 従業員の給料や仕入れや経費の支払いは停止できない。 修繕・再調達費用の発生（修理や復旧のための臨時費用が必要になる。）
取引先等		近隣の取引先の同時被災（仕入品の調達困難・顧客からの発注減少）



土砂災害

写真:総務省消防庁ホームページ



液状化

写真:総務省消防庁ホームページ



家具や物が散乱

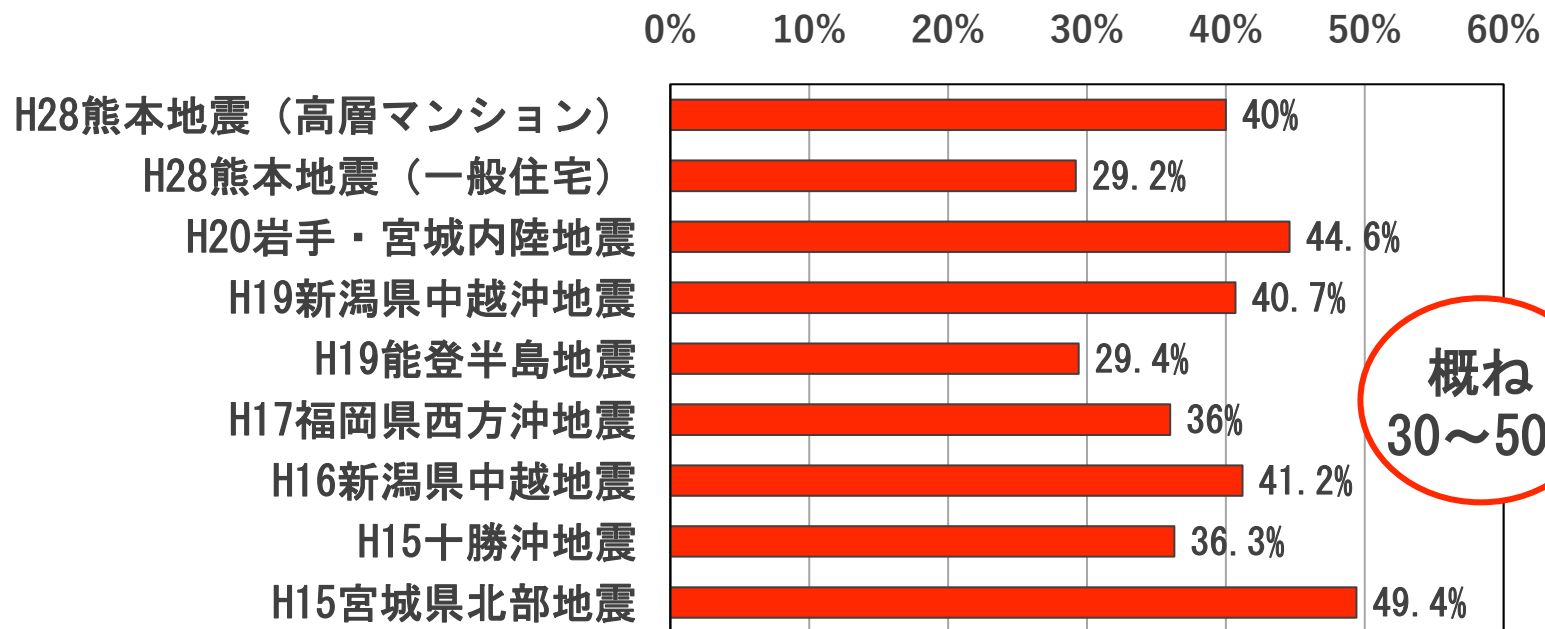


ブロック塀の倒壊

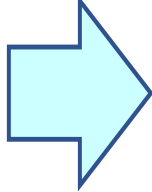
家具類の転倒・落下・移動による被害

地震でけがをした人のうち、約30～50%が、家具等の転倒・落下・移動を原因としている

近年発生した地震においてけがをした人のうち、
家具類の転倒・落下・移動を原因とするけが人の割合



4-3). 台風で、どんな被害が出るか？

台風の脅威		被害の例
強風（竜巻）		建物の損壊（倒壊・人的被害） 屋根瓦や看板の飛散・落下（窓ガラス損壊・人的被害） 立木・電柱の倒壊
大雨		河川の氾濫（堤防の決壊・越流） 浸水害 土砂災害（ガケ崩れ・土石流・地すべり） 交通障害（鉄道の運休） 停電・断水 電話の不通

1. BCPと防災

2.防災リーダーの役割

3.自施設の災害リスクの把握

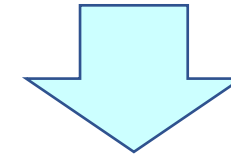
4.被害想定

5.事前の防災対策・災害発生時の対応

5-1). 地震（事前の対応）

2. 平常時の対応
(1)建物・設備の安全対策 ①人が常駐する場所の耐震措置 ②設備の耐震措置 ③水害対策
(2)電気が止まった場合の対策 ①自家発電機が設置されていない場合 ②自家発電機が設置されている場合
(3)ガスが止まった場合の対策
(4)水道が止まった場合の対策 ①飲料水 ②生活用水
(5)通信が麻痺した場合の対策
(6)システムが停止した場合の対策
(7)衛生面(トイレ等)の対策 ①トイレ対策 ②汚物対策
(8)必要品の備品 ①在庫量、必要量の確認
(9)賃金手当て

事前の準備なしに、災害発生時に、
うまく対応できるか？
うまくできないのであれば、必要な準備を
やっておきましょう！



利用者様や職員の安全確保や安否確認、
避難誘導、重要サービスの継続等
手順書の準備や訓練等が必要なら
事前に準備しておきましょう！

5-2). 地震（災害時の対応）

災害時対応業務一覧表

No.	実施 タイミング	活動項目
1	発災直後	各人の安全確保とまわりへの声かけ
2		入所者への情報提供(館内放送)
3		二次災害防止（火器停止・初期消火・通報）
4		応急救護
5	発災当日	災害対策本部の設置（電源等必要資材の準備）
6		BCP発動宣言（緊急時体制への変更）
7		職員・家族の安否確認（報告・集計）
8		入居者の安否確認
9		職員の拠点確保
10		職員の招集、確保
11		利用者家族、行政、法人本部等への連絡
12		災害情報収集（情報入手ツールの確保含む）
13		施設・設備被害状況確認（自施設・仕入れ先等）
14		エレベーター閉じ込め者の救出
15		避難判断・避難決心・避難誘導
16		被害施設・設備の応急復旧
17		通信手段の確保（情報連絡体制の確立）
18		情報システムの復旧
19		インフラ対策(自家発電、トイレ対策、防寒・避暑対策)
20		食事の手配（備蓄品の確保含む）
21		情報発信
22		近隣対応（地域ニーズへの対応・要援護者の受け入れ・一時入所及び利用者増員の対応）
23	翌日 ～3日後	職員の健康管理
24		重要業務の継続
25		ボランティアの受け入れ
26		問合せ対応
27		衛生管理
28		通勤・帰宅困難体制の確立
29		福祉避難所の開設
30		業界団体・他施設等・地域との連携
31	4日後～	職員の健康管理、ローテーション管理
32		情報システムの復旧
33		必要物資の調達、支援物資の受け入れ
34		被害箇所の復旧
35		計画停電への対応
36		行政、関係団体、法人本部などとの情報共有、調整

身の安全確保と二次災害防止

緊急体制（災害対策本部）による
対応

重要業務（サービス）の継続
復旧対応
＜福祉避難所の開設＞

5-3). 台風が来たら、何をすべきか？

どんな台風がどこに来るか！

- ①台風は、どんな規模で、どこに来るのか？
- ②雨は、危険な雨か？
- ③暴風は、危険か？（被害を出さないか？）
- ④土砂災害の危険はないか？
- ⑤川は氾濫しないか？

台風の接近前に備える！

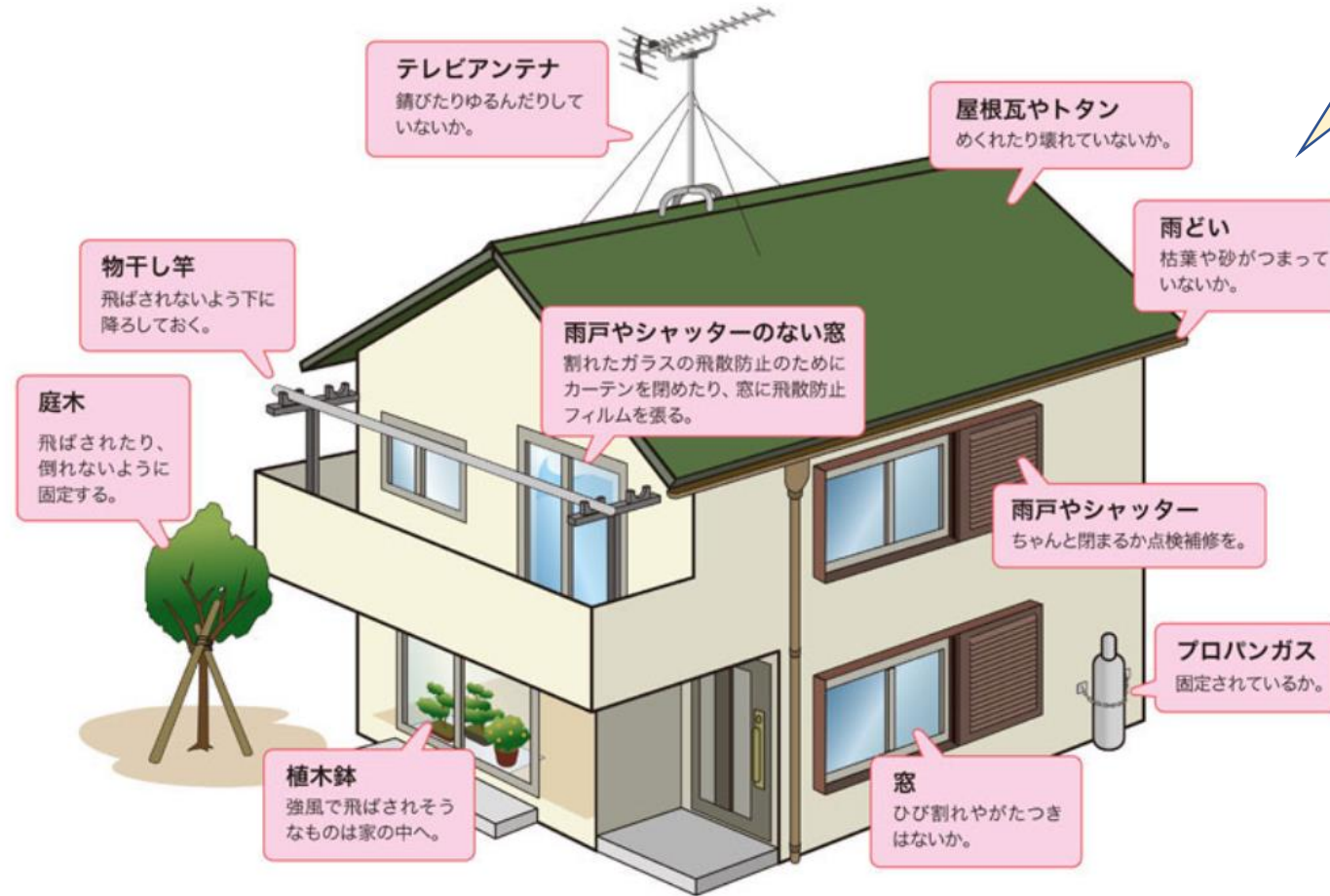
「避難」とは「難」を「避」け、安全を確保することです。**安全な場所にいる人まで避難する必要はありません。**

何も起きていないうちに逃げる！
（冠水した足元は危険）
（流れている水の中は危険）

ステップ	具体的行動
情報収集	1)自分の地域に、何が起きるか？
	①テレビ・ラジオ・パソコン・スマホ等で、気象情報の細やかな確認 （注意報・警報及び避難情報を入手）
	・気象庁：市町の防災情報・キキクル
	・国土交通省：川の防災情報（水位情報・ライブカメラ）
	・ICT：ライブカメラ
台風に備える	1)自宅のある場所の危険度・避難所の場所を確認 （ハザードマップ・浸水ナビ＜国土交通省アプリ＞で確認）
	2)家の周りの備え
	①屋根・壁外回りの点検
	②窓・雨戸の補強（強風でもものが飛んでくる）
	③排水溝の掃除（排水があふれる恐れ）
	3)停電・断水への備え
	①食料・水の準備（3日分程度）
	②懐中電灯（室内用・避難時用）・ラジオやスマホのバッテリー
	4)避難の準備（どこへ・どんな風に・誰と避難するか）
	①複数の避難場所の選定（避難所・親戚知人宅・ホテル等）
	②避難経路・避難場所までの移動時間の確認（実際に行ってみる）
	③非常持出品（袋）の準備＜不足なら買い増し＞
避難する	④避難時の服装（ヘルメットか帽子・レインコート・手袋・ひもで縛れる靴・リュック＜両手を開ける＞）
	⑤ガソリン給油
	1)雨風がひどくならないうちに避難する
	2)明るいうちに避難する
	3)自宅の戸締り・ブレーカーを落とす（停電→通電時の火災防止）
	4)近所への声掛け
	5)状況によっては、長期の避難も覚悟する（停電・浸水の影響が長引く）

5-4). 風水害（家の外の備え）

〈風が強まる前の家の対策〉



家の外の対策を載せてあります



写真：江戸川区ホームページ



写真：千葉市ホームページ

側溝、排水溝は掃除しておく。

5-5). 風水害での対応

- ①「自分（と家族）の身は、自分で守る！」
- ②台風の際は、できるだけ家にいる。
（自宅が安全であることが条件）
- ③どんな場合に、何をキッカケに避難するか、決めておく。
- ④どんな場合に、避難しないか、決めておく。
 - ・避難し遅れたら、垂直避難。
 - ・大雨で、道路の水が流れていたら危険（避難したら危険！）



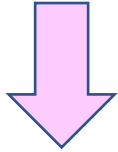
平常時（事前準備）、3日前、注意報・警報・避難指示が出た時、どう行動するかを決めておく



文章にして残しておく（マイタイムライン）

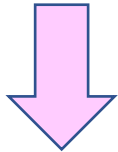
5-6). まとめ

「災害にあうと、何が起きるか？」



「何が起きるか」を想像できないと、うまく対応できない！

「その時、何をしなければならないか？」



当面の対応だけでなく、危機が去るまでの事を考えよう！

「その時、迷わず『すべき事』ができるか？」

事前の準備なしに、うまく対応できるか？
うまくできないのであれば、必要な準備をしておきましょう！